

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成19年2月8日(2007.2.8)

【公表番号】特表2006-514067(P2006-514067A)

【公表日】平成18年4月27日(2006.4.27)

【年通号数】公開・登録公報2006-017

【出願番号】特願2004-566589(P2004-566589)

【国際特許分類】

A 6 1 K	9/14	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 K	9/12	(2006.01)
A 6 1 K	36/00	(2006.01)
A 6 1 K	9/22	(2006.01)
A 6 1 K	47/46	(2006.01)
A 6 1 K	31/485	(2006.01)
A 6 1 K	31/222	(2006.01)
A 6 1 K	31/439	(2006.01)
A 6 1 K	31/137	(2006.01)
A 6 1 K	31/495	(2006.01)
A 6 1 K	31/445	(2006.01)
A 6 1 K	31/4458	(2006.01)
A 6 1 K	31/138	(2006.01)
A 6 1 K	31/165	(2006.01)
A 6 1 K	31/4422	(2006.01)
A 6 1 K	31/554	(2006.01)
A 6 1 K	31/5377	(2006.01)
A 6 1 K	38/28	(2006.01)
A 6 1 K	31/155	(2006.01)
A 6 1 K	31/64	(2006.01)
A 6 1 K	38/26	(2006.01)
A 6 1 P	3/10	(2006.01)
A 6 1 P	25/02	(2006.01)
A 6 1 P	9/12	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	9/14	
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 P	43/00	1 2 1
A 6 1 K	9/12	
A 6 1 K	35/78	X
A 6 1 K	9/22	
A 6 1 K	47/46	
A 6 1 K	31/485	
A 6 1 K	31/222	
A 6 1 K	31/439	
A 6 1 K	31/137	
A 6 1 K	31/495	
A 6 1 K	31/445	
A 6 1 K	31/4458	

A 6 1 K 31/138
A 6 1 K 31/165
A 6 1 K 31/4422
A 6 1 K 31/554
A 6 1 K 31/5377
A 6 1 K 37/26
A 6 1 K 31/155
A 6 1 K 31/64
A 6 1 K 37/28
A 6 1 P 3/10
A 6 1 P 25/02 1 0 4
A 6 1 P 9/12

【手続補正書】

【提出日】平成18年12月15日(2006.12.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

医薬および前記医薬のアンタゴニストを含んでなる製薬学的に安全な投薬形態物であつて、前記アンタゴニストが催吐剤を含んでなり、かつ前記製薬学的に安全な投薬形態物が破壊される場合にのみ有意の生物学的利用性を有する、上記形態物。

【請求項2】

請求項1に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であつて、前記医薬が調時放出に適合されているか、若しくは前記アンタゴニストが不溶性コーティングをさらに含んでなるか、または双方である、上記形態物。

【請求項3】

請求項1に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であつて、前記生物学的利用性が機械的破壊に際して生じる、上記形態物。

【請求項4】

請求項1に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であつて、前記生物学的利用性が化学物質による抽出に際して生じる、上記形態物。

【請求項5】

請求項1に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であつて、経口で投与されるように適合されている、上記形態物。

【請求項6】

直腸、非経口、膣、経皮、鼻内で、若しくはエアゾルを介して投与されるように適合している、請求項1に記載の製薬学的に安全な投薬形態物。

【請求項7】

請求項1に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であつて、前記催吐剤がトコン(ipac)若しくはその誘導体である、上記形態物。

【請求項8】

請求項1に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であつて、前記医薬が麻薬を含んでなる、上記形態物。

【請求項9】

請求項8に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であつて、前記麻薬が、コデイン、オキシコドン、プロポキシフェン、ペンタゾシン、それらの誘導体、若しくはそれらの組合せ

物である、上記形態物。

【請求項 10】

請求項 8 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記アンタゴニストが、ナロキソン、ナルメフェン、それらの誘導体、若しくはそれらの組合せ物をさらに含んでなる、上記形態物。

【請求項 11】

請求項 1 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記医薬が交感神経興奮薬を含んでなる、上記形態物。

【請求項 12】

抗ヒスタミン薬をさらに含んでなる、請求項 11 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物。

【請求項 13】

請求項 12 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記交感神経興奮薬が塩酸ブソイドエフェドリン若しくはその誘導体であり、かつ、前記抗ヒスタミン薬が塩酸セチリジン、塩酸フェキソフェナジン、それらの誘導体、若しくはそれらの組合せ物である、上記形態物。

【請求項 14】

請求項 12 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記アンタゴニストがアドレナリン作動性 遮断薬をさらに含んでなる、上記形態物。

【請求項 15】

請求項 11 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記交感神経興奮薬がメチルフェニデートを含んでなる、上記形態物。

【請求項 16】

請求項 15 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記アンタゴニストがアドレナリン作動性 遮断薬をさらに含んでなる、上記形態物。

【請求項 17】

請求項 11 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記交感神経興奮薬がアンフェタミンを含んでなる、上記形態物。

【請求項 18】

請求項 17 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記アンフェタミンが、メタンフェタミン、アンフェタミン、デキストロアンフェタミン、それらの誘導体、若しくはそれらの組合せ物である、上記形態物。

【請求項 19】

請求項 17 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記アンタゴニストがアドレナリン作動性 遮断薬をさらに含んでなる、上記形態物。

【請求項 20】

請求項 19 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記アドレナリン作動性遮断薬が、プロプラノロール、アテノロール、メトプロロール、それらの誘導体、若しくはそれらの組合せ物である、上記形態物。

【請求項 21】

請求項 1 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記医薬が降圧性薬品を含んでなる、上記形態物。

【請求項 22】

請求項 21 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記降圧性薬品が、アドレナリン作動性 遮断薬、カルシウム拮抗薬若しくはACE阻害薬である、上記形態物。

【請求項 23】

請求項 22 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記降圧性薬品が、プロプラノロール、メトプロロール、ニフェジピン、ジルチアゼム、ニソルジピン、マレイイン酸チモロール、それらの誘導体、若しくはそれらの組合せ物である、上記形態物。

【請求項 24】

請求項 2 1 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記アンタゴニストが交感神経興奮薬をさらに含んでなる、上記形態物。

【請求項 2 5】

請求項 2 4 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記交感神経興奮薬が、ドーパミン、エピネフェリン、それらの誘導体、若しくはそれらの組合せ物である、上記形態物。

【請求項 2 6】

請求項 1 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記医薬が血糖降下剤を含んでなる、上記形態物。

【請求項 2 7】

請求項 2 6 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記血糖降下剤が、インスリン、メトフォルミン、グリビジド、グリブリド、それらの誘導体、若しくはそれらの組合せ物である、上記形態物。

【請求項 2 8】

請求項 2 6 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記アンタゴニストが血糖上昇剤をさらに含んでなる、上記形態物。

【請求項 2 9】

請求項 2 8 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記血糖上昇剤が、エピネフェリン、グルカゴン、それらの誘導体、若しくはそれらの組合せ物である、上記形態物。

【請求項 3 0】

交感神経興奮性医薬、および前記医薬のアンタゴニストを含んでなる製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記製薬学的に安全な投薬形態物が破壊される場合にのみ前記アンタゴニストが有意の生物学的利用性を有する、上記形態物。

【請求項 3 1】

請求項 3 0 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記医薬が調時放出に適合されているか、若しくは前記アンタゴニストが不溶性コーティングを含んでなるか、または双方である、上記形態物。

【請求項 3 2】

請求項 3 0 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記生物学的利用性が機械的破壊に際して生じる、上記形態物。

【請求項 3 3】

請求項 3 0 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記生物学的利用性が化学物質による抽出に際して生じる、上記形態物。

【請求項 3 4】

請求項 3 0 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、経口で投与されるように適合されている、上記形態物。

【請求項 3 5】

直腸、非経口、膣、経皮、鼻内で、若しくはエアゾルを介して投与されるように適合されている、請求項 3 0 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物。

【請求項 3 6】

抗ヒスタミン薬をさらに含んでなる、請求項 3 0 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物。

【請求項 3 7】

請求項 3 6 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記交感神経興奮薬が塩酸プロソイドエフェドリン若しくはその誘導体であり、かつ、前記抗ヒスタミン薬が塩酸セチリジン、塩酸フェキソフェナジン、それらの誘導体、若しくはそれらの組合せ物である、上記形態物。

【請求項 3 8】

請求項 3 0 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記アンタゴニストがアド

レナリン作動性 遮断薬を含んでなる、上記形態物。

【請求項 3 9】

請求項 3 0 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記交感神経興奮薬がメチルフェニデートを含んでなる、上記形態物。

【請求項 4 0】

請求項 3 9 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記アンタゴニストがアドレナリン作動性 遮断薬を含んでなる、上記形態物。

【請求項 4 1】

請求項 3 0 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記交感神経興奮薬がアンフェタミンを含んでなる、上記形態物。

【請求項 4 2】

請求項 4 1 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記アンフェタミンが、メタンフェタミン、アンフェタミン、デキストロアンフェタミン、それらの誘導体、若しくはそれらの組合せ物である、上記形態物。

【請求項 4 3】

請求項 4 2 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記アンタゴニストがアドレナリン作動性 遮断薬を含んでなる、上記形態物。

【請求項 4 4】

請求項 4 3 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記アドレナリン作動性遮断薬が、プロプラノロール、アテノロール、メトプロロール、それらの誘導体、若しくはそれらの組合せ物である、上記形態物。

【請求項 4 5】

降圧性医薬、および前記医薬のアンタゴニストを含んでなる製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記製薬学的に安全な投薬形態物が破壊される場合にのみ前記アンタゴニストが有意の生物学的利用性を有する、上記形態物。

【請求項 4 6】

請求項 4 5 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記医薬が調時放出に適合されているか、若しくは前記アンタゴニストが不溶性コーティングを含んでなるか、または双方である、上記形態物。

【請求項 4 7】

請求項 4 5 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記生物学的利用性が機械的破壊に際して生じる、上記形態物。

【請求項 4 8】

請求項 4 5 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記生物学的利用性が化学物質による抽出に際して生じる、上記形態物。

【請求項 4 9】

経口で投与されるように適合されている、請求項 4 5 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物。

【請求項 5 0】

直腸、非経口、膣、経皮、鼻内で、若しくはエアゾルを介して投与されるように適合されている、請求項 4 5 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物。

【請求項 5 1】

請求項 4 5 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記降圧性薬品が、アドレナリン作動性 遮断薬、カルシウム拮抗薬若しくはACE阻害薬である、上記形態物。

【請求項 5 2】

請求項 5 1 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記降圧性薬品が、プロプロラノロール、メトプロロール、ニフェジピン、ジルチアゼム、ニソルジピン、マレイン酸チモロール、それらの誘導体、若しくはそれらの組合せ物である、上記形態物。

【請求項 5 3】

請求項 4 5 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記アンタゴニストが交感

神經興奮薬を含んでなる、上記形態物。

【請求項 5 4】

請求項 5 3 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記交感神經興奮薬がドーパミン、エピネフェリン、それらの誘導体、若しくはそれらの組合せ物である、上記形態物。

【請求項 5 5】

血糖降下性医薬、および前記医薬のアンタゴニストを含んでなる製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記製薬学的に安全な投薬形態物が破壊される場合にのみ前記アンタゴニストが有意の生物学的利用性を有する、上記形態物。

【請求項 5 6】

請求項 5 5 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記医薬が調時放出に適合されているか、若しくは前記アンタゴニストが不溶性コーティングを含んでなるか、または双方である、上記形態物。

【請求項 5 7】

請求項 5 5 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記生物学的利用性が機械的破壊に際して生じる、上記形態物。

【請求項 5 8】

請求項 5 5 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記生物学的利用性が化学物質による抽出に際して生じる、上記形態物。

【請求項 5 9】

経口で投与されるように適合されている、請求項 5 5 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物。

【請求項 6 0】

直腸、非経口、腔、経皮、鼻内で、若しくはエアゾルを介して投与されるように適合されている、請求項 5 5 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物。

【請求項 6 1】

請求項 5 5 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記血糖降下剤がインスリン、メトフォルミン、グリビジド、グリブリド、それらの誘導体、若しくはそれらの組合せ物である、上記形態物。

【請求項 6 2】

請求項 5 5 に記載の製薬学的に安全な投薬形態物であって、前記アンタゴニストが血糖上昇剤を含んでなる、上記形態物。

【請求項 6 3】

プロプラノール、メトプロロール、ニフェジピン、ジルチアゼム、ニソルジピン、マレイン酸チモロール、それらの誘導体、若しくはそれらの組合せ物から構成される医薬、および

催吐剤を含む前記医薬のアンタゴニストを含んでなる経口の製薬学的に安全な投与形態物であって、前記製薬学的に安全な投与形態物が機械的に破壊される場合にのみ前記アンタゴニストが有意の生物学的利用性を有し、かつ、前記医薬が調時放出に適合されているか、若しくは前記アンタゴニストが不溶性コーティングを含むか、または双方である、上記形態物。

【請求項 6 4】

降圧性医薬、およびドーパミン、エピネフェリン、それらの誘導体、若しくはそれらの組合せ物を含む医薬、並びに催吐剤を含む前記医薬のアンタゴニストを含んでなる経口の製薬学的に安全な投与形態物であって、前記製薬学的に安全な投与形態物が機械的に破壊される場合にのみ前記アンタゴニストが有意の生物学的利用性を有し、かつ、前記医薬が調時放出に適合されているか、若しくは前記アンタゴニストが不溶性コーティングを含むか、または双方である、上記形態物。